

第1回（仮称）練馬区学びと文化の推進プラン策定懇談会会議録

- 1 開催日時 平成26年10月27日(月)午後6時から8時15分
- 2 開催場所 練馬区役所19階1907会議室
- 3 出席委員 齊藤委員 座長、漆澤委員 副座長、池田委員、大橋委員、川井委員、堀川委員、田中委員、高橋委員、佐藤委員、橋本委員、古谷委員、金井委員
- 4 欠席委員 柴辻委員、中村委員
- 5 公開可否 原則公開（傍聴人0人）
- 6 配布資料 資料1（仮称）練馬区学びと文化の推進プラン策定懇談会設置要綱
資料2（仮称）練馬区学びと文化の推進プラン策定懇談会委員名簿
資料3（仮称）練馬区学びと文化の推進プランの策定にあたって
資料4 練馬区生涯学習推進計画の達成度について
資料5 練馬区文化芸術振興計画の達成度について
資料6 練馬区の現状等について
資料7（仮称）練馬区学びと文化の推進プラン 構成案たたき台
資料 練馬区的主要文化資源等
- 7 議事等 (1)（仮称）練馬区学びと文化の推進プラン策定懇談会委員の委嘱
(2)（仮称）練馬区学びと文化の推進プランの策定にあたって
(3) 今後の懇談会開催予定について

会議等の要旨

- (1) 委嘱式 各委員に委嘱状が交付された。

地域文化部長あいさつ

区長、副区長不在のため代理して委嘱状をお渡しした。現在、区は前川新区長のもと、新しいビジョンの策定に取り組んでいる。ビジョンは、区の現状と将来を示す白書、長期的な方向性を示す構想、5年間の取組みの戦略計画からなる新しい計画で、現在策定中である。

文化芸術および生涯学習の分野は、これまで文化芸術振興計画および生涯学習推進計画の2本立てで施策を推進してきた。この間、組織一元化や生涯学習センターへの名称変更、文化振興協会の指定管理受託など状況が変化している。両計画を統合し、ビジョンと整合を図り、来年度から5か年の計画を作りたい。

本日は計画の方向性などについて、学識経験者、関係団体、公募区民、大学生の方々の忌憚のない、幅広いご意見をいただきたい。よろしく願います。

- (2)（仮称）練馬区学びと文化の推進プランの策定にあたって

- ・冒頭、会議の公開について各委員に諮った。会議を基本的に公開とすることおよび会議の傍聴許可 会議資料の公開 会議要点記録のHP公開を確認した。
- ・各委員自己紹介、事務局等紹介の後、座長、副座長の選出を行った。

互選の結果、齊藤裕人委員（学識経験者）が座長に選出された。副座長には、

座長が漆澤その子委員（学識経験者）を指名した。

座長 （仮称）練馬区学びと文化の推進プランの資料が提出されているので、事務局の説明をお願いします。

（事務局の説明 資料1～資料6 省略）

座長 （仮称）練馬区学びと文化の推進プラン策定にあたり、今後の計画の取組みや考え方等について皆様の考えや、ご質問・ご意見等はあるか。

委員 資料を拝見した。区は事業によく取組んでいることがわかる。これをチェックしていくことから始まる。円滑に運んでいる部分と未だという部分を分析し、これからという部分を整理するのが出発点である。

委員 区民はねりま区報の情報をよく見ている。小学生が美術館に来ないとか、街々にある野外彫刻展示のよし悪しが地域から上がってこない状況があるが、区報をうまく利用すると文化芸術への理解や周知が高まる。また、イベントに多くの人に参加するようになると、区民全体の意識も高まる。全体が向上すると区の文化がさらによくなる。

座長 池袋から電車に乗ると、江古田駅で三大学が、練馬駅で練馬文化センター、中村橋駅に美術館があるように、それぞれの場所に様々な施設がある。入口から出口までよくわかるよう、情報がうまく展開できるようにならないかと思う。

事務局 周知のご意見以外に、どのような姿を目指すかというような観点や、現計画は区役所内部での事業内容を確認するなどの使われ方もされており、誰に向けて計画をつくっているのかわからないなどの意見もある。そのような意見も頂きたい。

委員 小学校から文化活動を取入れていかねばならないと思う。区報は残念だがランダムになっている。今回はこの目玉記事というようにメリハリがあってよい。現在の計画書は関心のある人にはわかるが、一般の人にはわかりにくい。底辺を広げないといけない。子どもや障害者向けに優しい街、住みやすいまちの方向にも目を向けてほしい。

座長 文化施策は、結果が出にくく時間がかかる。長い目で見えていかななくてはならない。アニメ産業と教育の連携に携わって、一方では、早く結果が出てほしいと感じるが、5年計画では少し短いかなと思っている。広い周知も必要である。

委員 資料5 計画の達成度の「検討に至らなかった」「着手できなかった」の理由は、人数的な問題で検討期間が足りなかったのか、それとも課題の必要性の問題なのか教えてほしい。また、計画策定への意見は、個別事業など具体的なものが示されない中でどう発言のスタンスをとればよいか。

事務局 ほとんどが課題の必要性の問題に属するものである。代替事業もあり検討に至らなかった例や、としまえん遊園地を都が整備する計画があり、区として活用を検討できる時期になかったなどのケースがある。

座長 この場は、ざっくばらんにどんどん意見を言ってもらう場である。例えば、アニメクリエイターワールドを実現させるため人材育成や財源、時間につい

て、区と民間がどのように関わるか、支援していくかというような意見をどんどん言ってほしい。

委員 小学校でのアニメ授業体験では、ワンピースやプリキュアなど好きなアニメの話に子どもたちの目がキラキラ輝く。これらの作品が地元の大泉での制作と知らない子が多い。プロが制作したセル画を見せるとすごいとの感想もある。アニメの作り方などの紹介を通じて、将来の職業選択などにもつながっていけばよいとの思いでいる。

事務局 アニメの計画は産業振興の観点から別計画がある。こちらの計画ではアニメは区の特徴的な文化として位置づけができないかと検討している。産業計画がまとまる中で示したい。

委員 子どもたちが社会でしっかりと育つように、ジュニアリーダー講習会などに取り組んでいる。ジュニアリーダーや青少年が地域で活躍する場は、スポーツ系は多いが文化系の活動は少ない。ジュニアリーダー卒業生や青少年リーダーたちが学んだ防災や遊びのテクニックなどを活用できる活躍の場を何かのシステムに組込んでほしい。

事務局 青少年リーダー等の活躍の場や、学びと文化の中で反映できる仕組みについてはご意見をいただきながら考えていきたい。

委員 今回は両計画を統合する計画である。文化芸術分野から生涯学習分野を眺めることになる。逆の場合もある。そういう風にしないとモザイクのままあまり意味がない。先ほど、達成度の意見があったが、順調に進まなかった施策や事業について、事業の立上げ経過や成果、今後の方向をどうするかなどの分析をシビアにするべきである。協会アクションプランでは、アートキャンパス事業などを打ち上げ、そういう方向に意識が向かうことを構想した。現在、プランの総括をしている。

次に、懇談会資料である。人口動態や予算状況、文化施設などの周辺区市比較の確認をしてほしい。当協会は、せたがや文化財団を目標に置いているがまだまだ時間がかかる。文化芸術は3～5年では測れない部分があり、長期スパンの視点も大きなファクターとしてある。また、小学校での狂言師派遣による、伝統文化に触れるワークショップ体験は、小さな取組みだが数値だけでは測れないものがある。

3点目は、練馬文化センターのハード部分である。先日開催のオペラ公演は、公演内容はよいが、あの椅子に3時間はきついとの苦情があった。ハード対応についても他自治体と比較をして、大きな目標としても良いのではないか。

座長 計画は何を大きな目標としていくのかが大事である。住みたくなるまちなど区民の声が上がってくるようになれば文化が高まっていく。

委員 小学校時代は調布市に住んでいた。通った小学校の近隣に桐朋学園があり、クラシックの音楽が流れる小学校だった。そういう環境で芸術や音楽への造詣が深くなった。ライフスタイルのひとつとして提案すれば、さらに底辺が広がるのではないか。

座長 小竹の森音楽祭に大学が記録映像担当として係わった。地域のあり方のひ

とつであり、音楽が息づいている。武蔵野音楽大学等の努力がある。そういう形がうまく他の地域にも広がっていけばよいと思う。

委員 小竹の森音楽祭は、担当の教諭が大学 OB など条件が揃っていた。やはり先生のエネルギーであるが、こういう形が区内に拠点的にできていくことが大事である。

委員 さらに文化のすそ野を広げるのが計画の大きなポイントとなる。神戸からこちらに転居して区報がまず頼りだった。それ以外の情報はわからなかった。区内には掲示板が多くその掲示情報が参考になった。区HPは、イベントを探せない。人口動態の状況を踏まえると、土日夜の事業活動がどれだけできるかである。また、区のイベントへの参加は敷居が高いイメージを外すことがポイントである。イベントへの参加は少し勇気がいる。

区民は力がありブレイクスルーすると住みやすい街になる。青少年の若いリーダーが生涯学習活動などで子どもたちと一緒にになり、取組むとうまく回ると思う。練馬文化センターの公演に行きたいが、車椅子で席までいくにはハードルが高い。

座長 文化センターもバリアフリー対応をしてくれているが、敷居が高いことについて他に意見があるか。大事な発言である。

委員 この懇談会も関所になってはよくない。区民と行政が行ったり来たりのルート・機能を高めることが大事である。

委員 高齢になり生涯学習センターなど身近な地域の文化を楽しもうと考えている。この1か月間の文化体験を例にあげる。 児童劇団-日大芸術学部 OB が演出 石神井公園松の風文化公園での武蔵野音楽大学コンサート ふるさと文化館分室での絵本作家展の催しを図書館にも広げてほしい。 あしたのジョー展やシェイクスピア展もよかったが、期間中、収蔵庫展があった。練馬にもモンパルナスや日本美術学院があったことをさらに PR できるのではないかと。 ふるさと文化館紹介展示関係者は勲章受章者に限るとのことだが、展示基準のハードルを下げしてほしい。もっと面白い人がいる。尾崎豊や小泉文夫等がいる。 区HPは、検索がしにくい。文化関係の一覧で検索できるようにしてほしい。まちづくりセンターHPの例がよかった。

委員 石神井松の風文化公園の音楽コンサートは、大学として良いチャンスをいただいている。小泉文夫先生は、私が学生の頃知己を得た。日本の音楽をより知るためにインドに渡り、その後、NHKラジオでクラシックをわかりやすく解説するなど、日本に民族音楽学を広めた人である。

委員 学んでいる学科は、演奏や表現の側でなくマネジメントの側から音楽等を見る学問である。公演等をどう人々に届けるか、またサポートするかなどの力になればと学んでいる。若者は力を持っているが、お金や大人の事情等に疎い。区が主となって、若者だけで美術や音楽、アニメなどを実施するような取組みを考えてほしい。やってみようと思っている人は多い。区がうまくサポートをすれば芸術に溢れる街になっていく。

大泉学園駅に流れる銀河鉄道 999 の音楽や、電車にアニメがラッピングされている例はあまりない。若者の力が伸びるように、引き出してもらえる区

になって行ってほしい。

委員 工芸などのものづくりや文化もすぐに答えが出ない。先ほどのジュニアリーダーもスポーツ関係が大部分で、ものづくりへの声あまりかからない。小学生のうちから文化に触れる場が欲しい。組織改正で幅広くできるようになったが、文化関係情報のつながりがよくなるようにしてほしい。

文化振興協会も音楽や芝居の鑑賞だけでなく、独自に文化につなげる仕組みづくりを進めることでもっとよくなる。あそこに行けば、何かできるというような場所、仕組みがほしい。

座長 残念なことだが情報が分散していることが、つながっていかないことになっている。

委員 新聞を購読する人が少なくなった。世帯ごとに配布するような方向が検討できないか。ページ数増やイラスト入りの特別号など、費用がかかるがそういうことをやっていかないと文化の底辺拡大は無理ではないか。

委員 ふるさと文化館の紹介展示関係者は、対象を広げられるのではないか。制限するのではなく柔軟な対応で、小泉文夫先生などはパネル展示されるべきと思う。

事務局 常設展示ではなく、展示入替えなどの工夫ができる。

委員 パネル展示者41人のうち、松本清張が唯一叙勲を受けていない。スペースは少しある。また、もっと情報をわかってもらえる手法等を考える必要がある。協会固有職員も半数を超え、さらに文化芸術から幅を広げたい。図書館との連携は指定管理の図書館と接触しており、民間同士動きやすい部分がある。

副座長 副座長としておおよその意見をまとめたい。アウトプットの区報活用をどうしたらよいかと区報リニューアル、配布方法。新聞購読者の減少への対応。豊島区では戸別世帯配達も始まっている。印刷経費の問題もあり、HPリニューアルが中心になるとの意見が多かった。文化の大衆化・底辺の拡大の意見、生涯学習は子どもから高齢者までと、文化とのふれあいは教育委員会との関係づくりは不可避であり、図書館との関係づくりについての意見などがあった。

座長 資料1～資料6については以上で終わりにしたい。次に、(仮称)練馬区学びと文化の推進プラン構成案たたき台として資料7が提出されているので、事務局の説明をお願いする。

(事務局の説明 資料7 省略)

座長 プラン構成案たたき台について意見や質問はあるか。

委員 先ほどパブリックアート、街並みの美学に触れたが、まちの美化のためタバコの投捨て防止に対する意識を高める努力が必要である。細かい部分だがパブリック文化への目配りがほしい。徹底すれば成果はあがる。

副座長 豊島区では、たばこの投捨て防止は区民活動の一環で対応している。

委員 基本理念の「支援する」は小さすぎる。5年間の計画であるからもっと大きく、こうすると言うのがあったほうがよい。

委員 練馬文化センターをリニューアルしてもらえるとありがたい。予算の壁があるが、近隣には優れた音響ホールを持つ施設が改築等で新たにできている。老朽化した練馬文化センターもチャンスがあればぜひ検討をしてほしい。

事務局 練馬文化センターは、駅前環境も大きく様変わりし、目的施設ということだけではそぐわなくなっている。

委員 練馬文化センターは障害者が利用しにくい。リニューアルというより、建て直しの構えでやってほしい。また、生涯学習センターも建て直しの時期になる。つながるようにしてほしい。

座長 計画には、改築のような大きな目玉があるとよい。

委員 2020年のオリンピックに向けて何か考えているか。オリンピック憲章には文化推進も謳われている。

事務局 国や都は文化関係含めて考えているが、区の場合は朝霞会場でのピストル競技のみであると聞いている。臨海部や多摩地域のように具体的に動いていない。

座長 広く情報を周知するところから始まると思う。広く知っていただくことを計画の目標値や施策に打ち出せばよい。また、いろいろな関係部署と連携しながら、産業分野も含めてつながりがあるとさらに広がっていく。

委員 理念のグレードをもう一段上げてほしい。「支援」だけだと行政計画としてどうかと思う。積極的なトーンがほしい。

委員 支援は当事者の問題になる。個人を支援しても文化は大きく広がらない。例えば、カフェ設置で集いの場づくりやくつろげる空間があるとか、公園等に土日に文化イベントや臨時カフェなどを開催し、文化の大衆化を図ることなど目をつけてよいのではないか。

座長 一通りご意見等をいただいた。言い足りない部分があれば後で事務局に伝えてほしい。事務局は、今日の意見や提案等を踏まえ、プラン素案の作成を進めてほしい。

事務局 今日いただいたご意見等を庁内検討委員会に諮るなどして、素案を作っていくたい。

(3) 今後の懇談会開催予定について

(第2回以降の会議日程について、第2回1月19日(月) 午後6時から、第3回3月23日(月) 午後6時から開催予定の各委員了承を得た。)

座長 その他について委員から特になければ、本日用意した議題は終了した。次回は、1月19日(月)に素案の検討となるのでよろしく願います。以上で第1回策定懇談を終了する。ご協力ありがとうございました。

(閉会)